

Title	ダンスアートにおける美的評価の普遍性と多様性
Sub Title	
Author	三好, 香次(Miyoshi, Kōji)
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2024
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要：社会学心理学教育学：人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.98 (2024.) ,p.86- 90
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2023年度博士課程学生研究支援プログラム研究成果報告
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000098-0086

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ダンスアートにおける美的評価の普遍性と多様性

三好香次

研究1 ストリートダンスの印象評定尺度の作成及びソロダンスとグループダンスの印象評価の比較

前年度の研究でジャズバレエ, ヒップホップ, ブレイクのダンス動画への印象評価から得られた4因子に対して, 因子負荷量の高かった2項目(卓越性因子は「心が奪われる」「惹かれる」, ダイナミックさ因子は「力強い」「強い」, 性的印象因子は「官能的な」「エロティックな」, 感情的評価因子は「繊細な」「優雅な」)の合計8項目で他のストリートダンスジャンルへの印象評定で確認的因子分析を行い, ストリートダンス尺度を作成した。また, 鑑賞者がソロのダンス動画とグループのダンス動画を鑑賞した際に, これらの4因子に対する因子得点が異なることを示した。

結果のみ抜粋: Vukadinović & Marković (2012)の12種類の形容語対と前年度研究の8種類の形容語対それぞれに対して, 因子分析を実施し, 3因子を抽出したモデルと4因子を抽出したモデルを比較した。Vukadinović & Marković (2012)の12種類の形容語対で3因子を抽出した場合は, $\chi^2(33) = 347.89$, $p < .01$, 4因子を抽出した場合は, $\chi^2(24) = 97.94$, $p < .01$, 前年度研究の8種類の形容語対で3因子を抽出した場合は, $\chi^2(7) = 680.90$, $p < .01$, 4因子を抽出した場合は, $\chi^2(2) = 5.44$, $p = .07$ であった。したがって, カイ2乗値が一番小さくモデルの適合度が高かったのは, 前年度研究の8種類の形容語対で4因子を抽出した場合であった。このモデルは, 第一因子が卓越性, 第二因子がダイナミックさ, 第三因子が性的印象, 第四因子が感情的評価と前年度研究の因子構造を再現し, 第4因子までの合計で84%の高い寄与率を示す安定した因子構造が確認された(表1)。

表1 ストリートダンス6ジャンルに対する印象評定課題の因子分析結果

項目	因子負荷量				共通性	評定値の平均値	評定値の標準偏差
	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子			
寄与率(計84.11%)	23.26%	22.18%	21.90%	16.78%			
心が奪われない—心が奪われる(irresistible)	0.87	0.23	0.21	0.26	0.92	4.05	1.59
惹かれない—惹かれる(fascinating)	0.87	0.23	0.22	0.27	0.93	4.04	1.61
弱々しい—力強い(infirm-powerful)	0.17	0.89	0.11	0.08	0.84	4.90	1.31
弱い—強い(weak-strong)	0.20	0.88	0.13	0.09	0.84	4.83	1.28
控えめな—官能的な(restrained-sensual)	0.21	0.20	0.77	0.31	0.77	4.37	1.16
慎ましい—エロティックな(reserved-erotic)	0.19	0.09	0.77	0.29	0.72	4.23	1.13
粗雑な—繊細な(raw-subtle)	0.29	0.14	0.39	0.74	0.80	4.49	1.22
不器用な—優雅な(clumsy-elegant)	0.26	0.07	0.31	0.73	0.70	4.45	1.28

N=2460

また, 4つの因子において, ソロ動画と3人グループ動画の因子得点を比較したところ(図1), 卓越性因子では $t(1229) = 3.66$, $p < .01$, $d = .00$, ダイナミックさ因子では $t(1229) = 4.67$, $p < .01$, $d = .00$, 性的印象因子では $t(1229) = .01$, $p = .92$, $d = .00$, 感情的評価因子では $t(1229) = .34$, $p = .73$, $d = .00$ であり, 卓越性因子とダイナミックさ因子においてのみ3人グループ動画の方がソロ動画よりも評価が有意に高かった。ただ, その効果量は非常に小さいため, その差は大きいとは言えなかった。

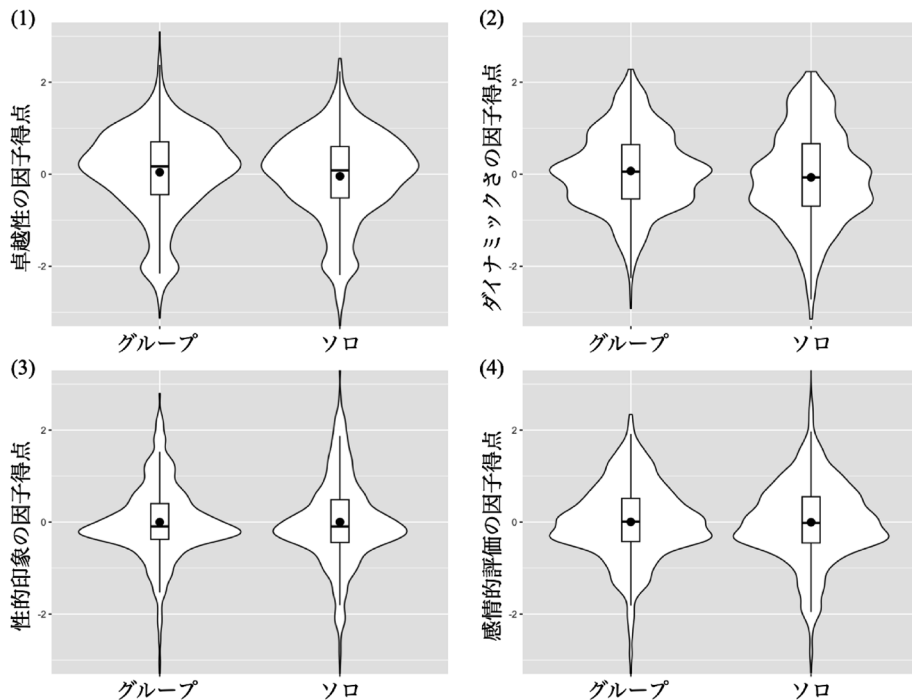


図1 抽出された4因子における因子得点のグループとソロの値の比較

幅の広いところはデータ分布が高いことを意味する。分布形の推定には統計解析ソフトRにてカーネル密度推定を用いた。ボックスプロットは四分位数を表し、ヒゲの下端は外れ値（第1四分位数から四分位範囲×1.5以上離れた値）を除いた最小値、ヒゲの上端は外れ値（第3四分位数から四分位範囲×1.5以上離れた値）を除いた最大値、真ん中の線が中央値である。黒丸は平均値を表している。

加えて、参加者間同士のMM1による分析も行なった。各因子のソロ動画と3人グループ動画のMM1の差を検討する際に、個人平均間相関は間隔尺度ではないため、ウィルコクソンの符号順位と検定を行った。その結果、ソロ動画の方が3人グループ動画よりもMM1は高く、卓越性は、 $Z = 3.36, p < .01, r = .23$ 、ダイナミックさは、 $Z = 7.32, p < .01, r = .46$ 、性的印象は、 $Z = 4.41, p < .01, r = .29$ 、感情的評価は、 $Z = 1.71, p = .09, r = .12$ であった（図2）。MM1は4因子ともソロ動画の方が3人グループ動画よりも値が高いが、卓越性、ダイナミックさ、性的印象の因子に関しては有意に高いことを示した。また、その効果量も中程度以上の値があり、卓越性、ダイナミックさ、性的印象に関しては、ソロ動画の方が3人グループ動画よりも共有嗜好が強いことを示した。特に卓越性と性的印象に関しては、3人グループ動画に対する個人平均間相関の値が0に近い値が多くなり、鑑賞者に応じて3人グループ動画をソロ動画よりも卓越性と性的印象の因子で個人差に依存する独自の評価をしている結果となった。

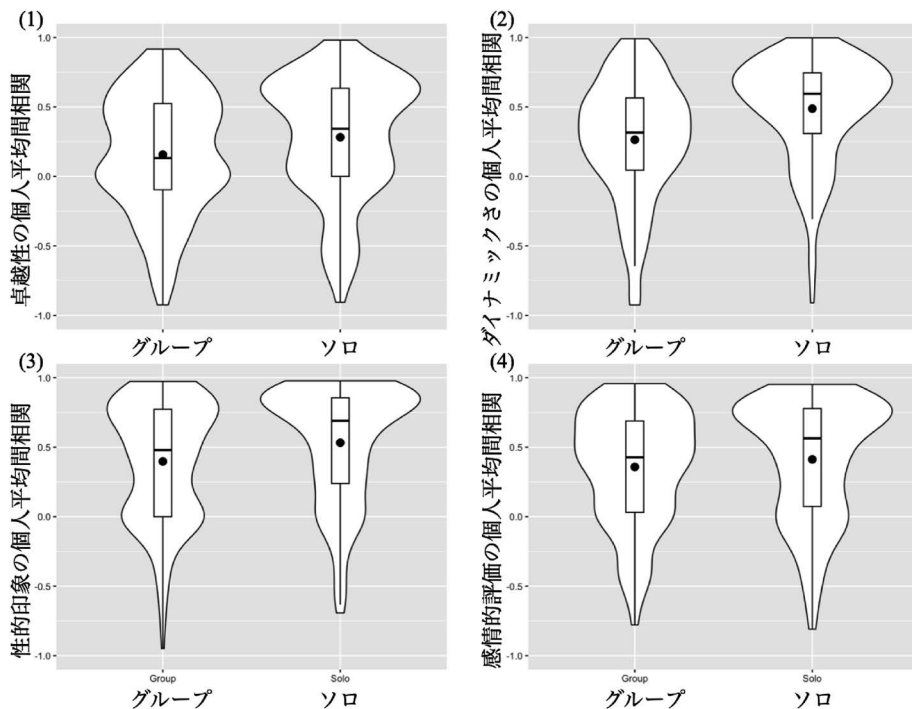


図2 抽出された4因子における個人平均間相関によるグループとソロのMM1

幅の広いところはデータ分布が高いことを意味する。分布形の推定には統計解析ソフトRにてカーネル密度推定を用いた。ボックスプロットは四分位数を表し、ヒゲの下端は外れ値（第1四分位数から四分位範囲×1.5以上離れた値）を除いた最小値、ヒゲの上端は外れ値（第3四分位数から四分位範囲×1.5以上離れた値）を除いた最大値、真ん中の線が中央値である。黒丸はMM1を表している。

研究2 ダンス映像と音楽の適合度に対する印象評価への熟達度の影響（分析中）

ストリートダンス尺度を用いて、音楽とダンスの動きが一致した動画、音楽のリズムとダンス映像から感じ取られるリズムが不一致な動画、音楽のメロディとダンス映像から感じ取られるメロディが不一致な動画、無音のダンス動画への印象評価を測定し、クロスモダリティ効果の存在を示した。また、音楽との一致の仕方が異なる4条件に共通する要素と独自の要素を調べ、音楽のダンスへの身体化シミュレーションを促進する効果を検証した。

研究3 ダンスの感情表現に使用する音楽の選曲

Cowen et al. (2020) の先行研究で示された13感情から、5種類の基本感情（森 & 岩永, 2014）を選択することで、円環理論にも基本感情理論にも矛盾のない5種類の基本感情から喚起される感情分布の異なる2曲ずつを選択し、感情を喚起させる10曲を選曲した。

結果のみ抜粋: 10曲のCowen et al. (2020)の13感情に対する評定値は図3に示した。10曲がそれぞれ5つの基本感情を代表する曲ではあるものの、同一感情の2曲では似ている部分も多いが、それぞれ異なる感情評価の分布となっている。さらに、これらの曲をRussell (1980)の2次元尺度（快-不快、覚醒-沈静）にマッピングしたところ、同一基本感情の2曲でしっかりとクラスターを形成し、そのクラスターがCowen et al. (2020)のマップ（<https://www.ocf.berkeley.edu/~acowen/music.html#>）と同様に、綺麗に

5角形を形成した（図4）。したがって、本研究で用いた10曲は、5つの基本感情を代表する2曲ずつであることが確認され、尚且つその2曲は似てはいるが異なる感情を喚起させる曲であることが確認された。

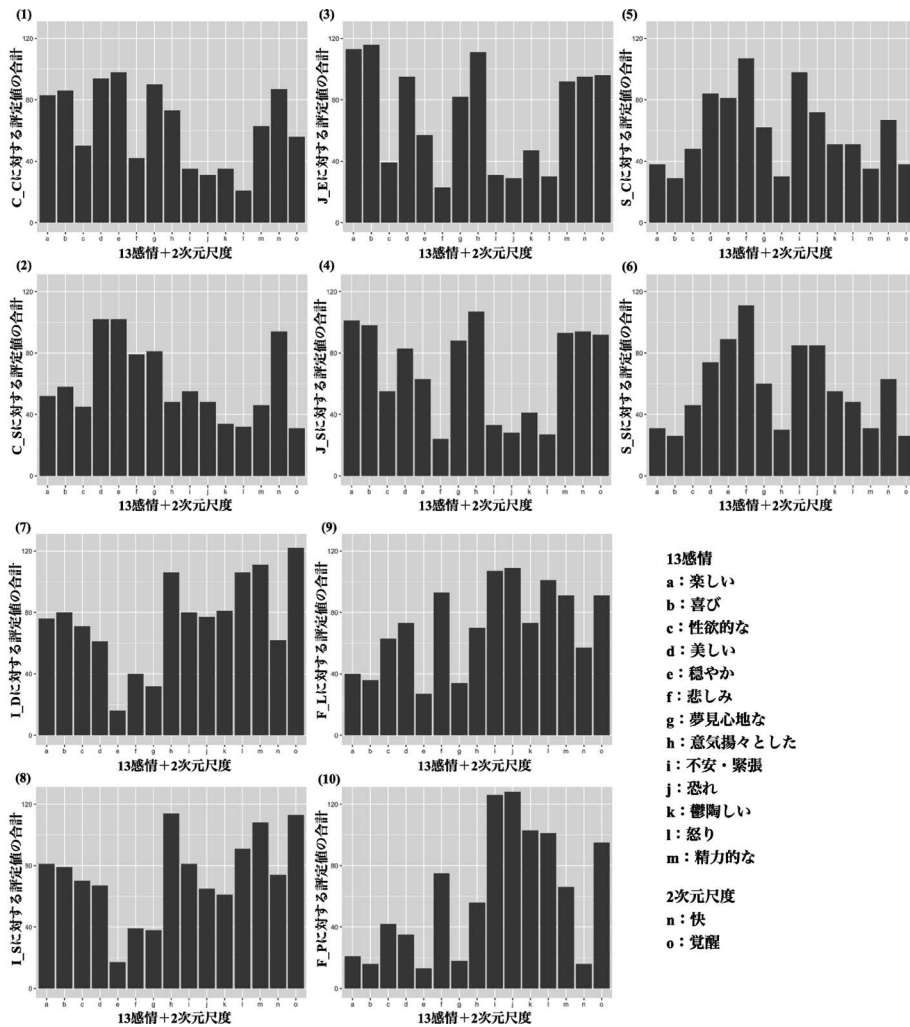


図3 実験刺激として用いた10曲に対する13感情と2次元尺度の合計評定値
横軸（X軸）のaからoがCowen et al. (2020)の13感情とRussell (1980)の2次元尺度を表し、縦軸（Y軸）がその評価値の合計である。

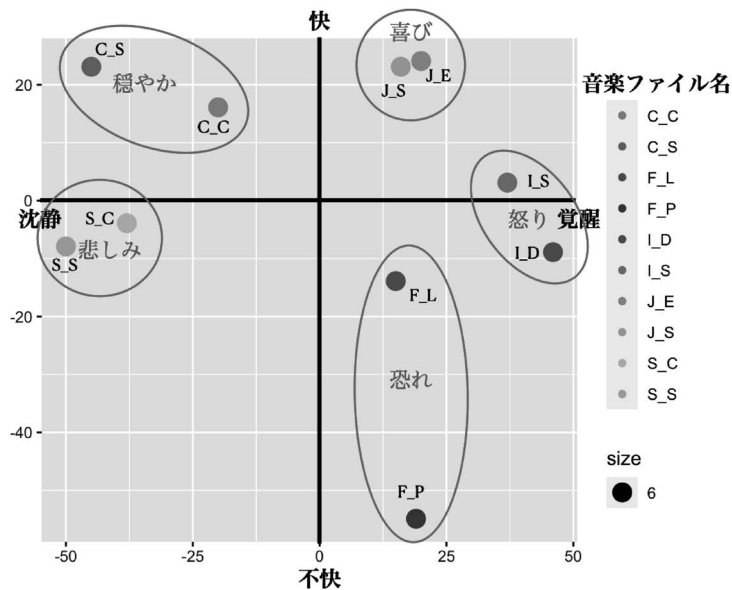


図4 Russell (1980)の2次元尺度（覚醒-沈静，快-不快）における10曲の分布
各点が平均値（0の値）からの10曲それぞれの差分得点を表している。5種類の基本感情ごとのクラスターを赤い枠線で囲んで示した。

研究4 ダンスの感情表現に対する印象評価への熟達度の影響—音楽なしの感情表現から感情を喚起させる音楽に合わせた感情表現まで—（実験準備中）

鑑賞者にダンサーがどの曲（感情）を表現しているかが伝わっているかを調べる。その際に、その感情の伝達度に対して、鑑賞者のダンスへの熟達度がどう影響を与えているのか、身体化シミュレーションの程度を筋電反応図で測定することで検討する。また、それぞれの感情を表した音楽に対して具体的な表現から抽象的な振り付けの表現に、ジャンルを超えた普遍性や多様性の存在を議論する。